

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	舞鶴工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科			5	18	23	7	
	電気情報工学科			5	3	8	7	
	電子制御工学科			7	5	12	7	
	建設システム工学科・都市環境コース			5	14	19	7	
	建設システム工学科・建築コース			5	19	24	7	
	総合システム工学専攻・電気電子システム工学コース				12	12	7	
	総合システム工学専攻・機械制御システム工学コース				18	18	7	
	総合システム工学専攻・建設工学コース				20	20	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.maizuru-ct.ac.jp/wp-content/uploads/2025/04/jitsumu_2025.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	舞鶴工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/yakuin.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01)
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月 1日～2026 年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理 工学府長・研究院長	2024年4月 1日～2026 年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月 1日～2026 年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	舞鶴工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>開講している全科目について、科目担当教員が科目基礎情報、到達目標、ルーブリック、学科の到達目標項目との関係、教育方法、成績の評価方法・評価基準、授業計画、評価割合を、Web シラバス上で入力し、作成されたシラバスについては、教務委員会で確認の上、年度当初よりホームページ上で公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.maizuru-ct.ac.jp/campuslife/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>(1) 講義科目においては、科目ごとに到達目標を設定し、平常の取り組み(演習、宿題、レポートなど)と定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価している。到達度と評価基準は以下のとおりである。</p> <p>100～90 A+、89～80 A、79～70 B、69～60 C 59～0 F (不合格)</p> <p>(2) 実技・実験・実習・演習などの実践科目においては、課題の取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価している。</p> <p>(3) 卒業研究(本科)及び特別研究(専攻科)においては、研究成果、研究発表、質疑応答、取り組み姿勢、論文などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価し、60%以上の到達度をもって合格としている。</p> <p>(4) 卒業設計(建設システム工学科)においては、発表の内容、質疑応答、取り組み姿勢、論文などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価し、60%以上の到達度をもって合格とする。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価の指標として、平均点により成績の分布状況を把握している。各学年での平均点の算出は、次の要領で行う。</p> <p>(1) 規程第3条第3項、第4項及び第5項で定めた平均点には参入しない科目を除いたすべての当該学年の科目を、平均点算出の科目とする。</p> <p>(2) 平均点算出の科目のそれぞれの単位数を総和する。これを単位数の総和という。</p> <p>(3) 平均点算出の科目の評価点にそれぞれの科目の単位数を乗じ、それらの積を総和する。 これを評価点の総和という。</p> <p>(4) 評価点の総和を単位数の総和で除した商を平均点とする。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.maizuru-ct.ac.jp/wp-content/uploads/2025/04/binran_R07.pdf (学生便覧 P92)</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>(令和4年度以降入学者)</p> <p>本校準学士課程の目的、専攻科の目的・専攻科修了者像に基づき、自らが継続的に学習することで、定められた目標を達成し、卒業、修了の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業、修了を認定する。</p> <p>(令和3年度以前入学者)</p> <p>教育理念、専攻科修了者像、各学科の人材養成の目的などに基づいて、本科卒業ならびに専攻科修了を認定するための要件として、また、卒業時ならびに修了時に学生が修得すべき能力を表すものとして、学習・教育到達目標を定めている。</p> <p>校長は、教員会議の議を経て、次の各号の要件をすべて満たした者を、本校全学年の課程を修了したものと認定し、卒業させる。</p> <p>(1) 卒業単位数を満たしていること。</p> <p>(2) 必修科目の単位をすべて修得していること。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	舞鶴工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR5.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jigyohoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R5jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称: 独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度: 令和7年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
中長期計画 (名称: 独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度: 令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/public_information/

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/)
(概要) あらゆるものづくりの基礎となる、機械工学の基礎知識と技術を修得し、環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/)
(概要) (令和 4 年度以降入学者) 本校準学士課程の目的に基づき、自らが継続的に学習することで、定められた目標を達成し、卒業の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定する。 (令和 3 年度以前入学者) 教育理念、各学科の人材養成の目的などに基づいて、本科卒業を認定するための要件として、また、卒業時に学生が修得すべき能力を表すものとして、学習・教育到達目標を定めている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/)
(概要) (令和 4 年度以降入学者) 「一般科目」 (1) 基礎的な数学と自然科学を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群 (基礎数学、物理、化学、ライフ&アースサイエンスなど) (2) 人文・社会科学の一般知識を修得して広い視野を持ち、技術者としての倫理を身につけ、異文化を理解し、交流する力を育成するための科目群 (総合英語、総合国語、歴史総合、公共、哲学、法学など) (3) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組む力を育成するための科目群 (保健体育など) 「専門科目」 (1) 応用的な数学と自然科学の知識を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群 (応用物理、応用数学) (2) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題の解決に活用できる能力を育成するための科目群 (2-m1) 材料力学分野 (材料力学、材料加工学など) (2-m2) 流体力学分野 (水力学、流体工学など) (2-m3) 熱力学分野 (工業熱力学、伝熱工学など) (2-m4) 機械力学分野 (機械力学など) (2-m5) 設計分野 (情報処理、機械設計法、材料学など) (3) 専門的な実験を遂行・分析することができ、修得した実践技術をものづくりに活用できる能力を育成するための科目群 (機械工学実験、工作実習、設計製図、ものづくり演習)

など)
(4) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組み、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造し、その成果を発表できる能力を育成するための科目群（創造設計製作、卒業研究など）

（令和3年度以前入学者）

- 1) 機械工学分野の基礎工学である材料、流体、熱、振動などの力学について、これらの知識を体系的に修得させる科目を開設します。
- 2) 機械工学分野の統合化の基盤となる設計、加工、制御、計測、電気工学など、生産技術に関わる知識を修得させる科目を開設します。
- 3) 機械技術者として必要な技術的スキル、主体的・能動的な実践力およびチームとしての協調性を育むため、実験・実習・演習科目を効果的に配置します。またそれらの科目、卒業研究などを通じて、問題発見・分析・解決能力また成果の発表・報告能力などを総合的に養います。
- 4) 機械工学の専門知識を統合して、技術に関わるデザイン能力や創造能力を育むため、創造演習、創造設計製作および卒業研究などの科目を開設します。
- 5) コンピュータを技術の実践に活用する能力を養うため、情報リテラシー、プログラミングの基礎、数値計算、メカトロニクスなどについて、これらを学習する科目を開設します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/>）

（概要）

機械工学科では、理論と現象を正確に理解し、いろいろな事態に的確に判断でき、それを実行できる行動力を持った技術者の育成を目指しています。機械工学は、あらゆる「ものづくり」の基礎をなす学問であるからです。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

- ・「ものづくり」が好きな人、関心がある人
- ・「自動車」、「ロボット」や動くものが好きな人、関心がある人
- ・将来、機械の開発、設計、製造、保守等の分野で世の中の役に立ちたい人（令和4年度入学者）
- ・身体が不自由な人のための福祉機械に興味がある人（令和3年度以前入学者）

学部等名 電気情報工学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/>）

（概要）

電気・電子工学及び情報・通信工学の分野の基礎知識と技術を修得し、環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：<https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/>）

（概要）

（令和4年度以降入学者）

本校準学士課程の目的に基づき、自らが継続的に学習することで、定められた目標を達成し、卒業の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定する。

（令和3年度以前入学者）

教育理念、各学科の人材養成の目的などに基づいて、本科卒業を認定するための要件として、また、卒業時に学生が修得すべき能力を表すものとして、学習・教育到達目標を定めている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/>）

<p>(概要)</p> <p>(令和4年度以降入学者)</p> <p>「一般科目」</p> <p>(1) 基礎的な数学と自然科学を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群 (基礎数学、物理、化学、ライフ&アースサイエンスなど)</p> <p>(2) 人文・社会科学の一般知識を修得して広い視野を持ち、技術者としての倫理を身につけ、異文化を理解し、交流する力を育成するための科目群 (総合英語、総合国語、歴史総合、公共、哲学、法学など)</p> <p>(3) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組む力を育成するための科目群 (保健体育など)</p> <p>「専門科目」</p> <p>(1) 応用的な数学と自然科学の知識を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群 (応用物理、応用数学)</p> <p>(2) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題の解決に活用できる能力を育成するための科目群</p> <p>(2-e1) 電気分野 (電気基礎、電気回路、交流回路、制御工学など)</p> <p>(2-e2) 電子分野 (アナログ回路、電磁気学、電子工学など)</p> <p>(2-e3) 情報分野 (情報基礎、C言語、情報理論、オペレーティングシステムなど)</p> <p>(2-e4) 通信分野 (アナログ信号処理、デジタル信号処理、ネットワーク論など)</p> <p>(3) 専門的な実験を遂行・分析することができ、修得した実践技術をものづくりに活用できる能力を育成するための科目群 (回路実習、プログラミング実習、電気情報工学実験など)</p> <p>(4) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組み、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造し、その成果を発表できる能力を育成するための科目群 (創造工学、工学基礎研究、卒業研究など)</p> <p>(令和3年度以前入学者)</p> <p>1) 高度情報化社会の将来を担う実践的技術者を育成するため、電気系科目群、電子系科目群、情報系科目群、通信系科目群を開設します。</p> <p>2) 講義で学んだことを体得するために、電気・電子・情報・通信の4分野を複合的に組み合わせた実験・実習科目群を開設します。</p> <p>3) 4分野の専門知識を連携させる能力と豊かな創造力・発想力を養うため、問題解決型授業科目群を開設し、工学基礎研究・卒業研究を行います。</p> <p>4) 上記の実験・実習科目群、問題解決型授業科目群、工学基礎研究・卒業研究では、チームで活動するために必要なコミュニケーション能力や、課題の提案・報告を行うプレゼンテーション能力も併せて育成します。</p> <p>5) コンピュータを技術開発に活用する能力を育成するため、情報系科目群および実験・実習科目群を開設します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/)</p>
<p>(概要)</p> <p>電気情報工学科では、将来に渡って「発想の泉」となる工学基礎科目の上に立ち、電気・電子系及び情報系科目の幅広い分野を勉強します。本学科では、次のような人の入学を期待しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気・電子、情報・通信分野に関心がある人 ・ハードウェア、ソフトウェアなどの「ものづくり」ができるようになりたい人 ・「自分の志」を抱いて、基礎科目を継続的に学習できる人

<p>学部等名 電子制御工学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/)</p>

<p>(概要)</p> <p>電子・機械システム及び制御・情報技術を幅広く修得し、それらを融合したメカトロニクス技術分野において、環境とエネルギーに配慮した設計・開発・管理運営ができる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/）</p>
<p>(概要)</p> <p>(令和4年度以降入学者)</p> <p>本校準学士課程の目的に基づき、自らが継続的に学習することで、定められた目標を達成し、卒業の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定する。</p> <p>(令和3年度以前入学者)</p> <p>教育理念、各学科の人材養成の目的などに基づいて、本科卒業を認定するための要件として、また、卒業時に学生が修得すべき能力を表すものとして、学習・教育到達目標を定めている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/）</p>
<p>(概要)</p> <p>(令和4年度以降入学者)</p> <p>「一般科目」</p> <p>(1) 基礎的な数学と自然科学を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群（基礎数学、物理、化学、ライフ&アースサイエンスなど）</p> <p>(2) 人文・社会科学の一般知識を修得して広い視野を持ち、技術者としての倫理を身につけ、異文化を理解し、交流する力を育成するための科目群（総合英語、総合国語、歴史総合、公共、哲学、法学など）</p> <p>(3) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組む力を育成するための科目群（保健体育など）</p> <p>「専門科目」</p> <p>(1) 応用的な数学と自然科学の知識を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群（応用物理、応用数学）</p> <p>(2) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題の解決に活用できる能力を育成するための科目群</p> <p>(2-s1) 電気電子分野（電気基礎、電子工学など）</p> <p>(2-s2) 機械分野（水力学、熱力学、材料力学など）</p> <p>(2-s3) 計測制御分野（制御工学、ロボティクス、計測工学など）</p> <p>(2-s4) 情報分野（プログラミング、数値計算法など）</p> <p>(3) 専門的な実験を遂行・分析することができ、修得した実践技術をものづくりに活用できる能力を育成するための科目群（メカトロニクス演習、電子制御実習、CAD演習、電子制御実験など）</p> <p>(4) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組み、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造し、その成果を発表できる能力を育成するための科目群（創造設計プロジェクト、卒業研究など）</p> <p>(令和3年度以前入学者)</p> <p>1) 機械と電気・電子を融合したメカトロニクスシステムを開発し、システムに機能を付加する能力を育成するために、機械系科目群、電気・電子系科目群、制御・計測系科目群、情報系科目群を開設します。</p> <p>2) 専門知識を統合してメカトロニクスシステムを創造し、様々な機能創成に必要なデザイン能力と創造能力を育成するために、創造設計科目および卒業研究を実施します。</p> <p>3) メカトロニクス技術者に必要な主体的・能動的実践力を育成するために、実験・実習・</p>

<p>演習科目群を開設します。</p> <p>4) 上記の創造設計科目、実験・実習・演習科目群、卒業研究では、チームで活動するために必要な能力や、課題の提案・報告を行う能力も併せて育成します。</p> <p>5) コンピュータを技術の実践に活用する能力を育成するため、プログラミング、CADによる演習科目群を開設します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/）</p>
<p>（概要）</p> <p>電子制御工学科では、メカトロニクス技術者の育成を目指し、機械系、電子・電気系、制御・計測系及び情報系の幅広い分野を勉強します。本学科では、次のような人の入学を期待しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボットの設計製作や制御応用に関心のある人 ・電子回路やマイコンを使ったものづくりをしたい人 ・コンピュータや「もののしくみ」に興味を持ち、好奇心旺盛な人

<p>学部等名 建設システム工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/）</p>
<p>（概要）</p> <p>安全で快適な社会の創造とそのための基盤を、計画・建設・維持する基礎知識と技術を修得し、環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/）</p>
<p>（概要）</p> <p>（令和4年度以降入学者）</p> <p>本校準学士課程の目的に基づき、自らが継続的に学習することで、定められた目標を達成し、卒業の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定する。</p> <p>（令和3年度以前入学者）</p> <p>教育理念、各学科の人材養成の目的などに基づいて、本科卒業を認定するための要件として、また、卒業時に学生が修得すべき能力を表すものとして、学習・教育到達目標を定めている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/）</p>
<p>（概要）</p> <p>（令和4年度以降入学者）</p> <p>「一般科目」</p> <p>(1) 基礎的な数学と自然科学を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群（基礎数学、物理、化学、ライフ&アースサイエンスなど）</p> <p>(2) 人文・社会科学の一般知識を修得して広い視野を持ち、技術者としての倫理を身につけ、異文化を理解し、交流する力を育成するための科目群（総合英語、総合国語、歴史総合、公共、哲学、法学など）</p> <p>(3) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組む力を育成するための科目群（保健体育など）</p> <p>「専門科目」</p> <p>(1) 応用的な数学と自然科学の知識を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群（応用物理、応用数学）</p> <p>(2) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題の解決に活用できる能力を育成するための科目群</p>

<p>[都市環境コース]</p> <p>(2-c1) 構造分野 (構造力学、建設材料学、鋼構造学、耐震工学など)</p> <p>(2-c2) 水工分野 (水理学、河川工学、海岸工学など)</p> <p>(2-c3) 地盤分野 (地盤工学、土木施工、地盤防災工学など)</p> <p>(2-c4) 計画分野 (測量学、土木計画、土木施工など)</p> <p>(2-c5) 環境分野 (環境工学、環境衛生学など)</p> <p>[建築コース]</p> <p>(2-a1) 建築構造分野 (構造力学、建設材料学、鋼構造学、建築構造、耐震工学など)</p> <p>(2-a2) 建築環境分野 (建築環境、建築設備など)</p> <p>(2-a3) 建築計画分野 (建築計画、建築論、建築法規など)</p> <p>(2-a4) 設計・製図分野 (建設製図、建築デザインなど)</p> <p>(3) 専門的な実験を遂行・分析することができ、修得した実践技術をものづくりに活用できる能力を育成するための科目群 (測量実習、建設システム工学実験、情報処理など)</p> <p>(4) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組み、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造し、その成果を発表できる能力を育成するための科目群 (建設製図制作、建設設計製図、卒業研究・卒業設計など)</p> <p>(令和3年度以前入学者)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害に強い、自然と調和した、快適な地域社会を創り、運営できる土木技術者と建築技術者を育成するため、土木工学分野と建築学分野の専門科目群を開設します。 2) 創造能力やデザイン能力を育成するため、設計製図や工学実験・実習、卒業研等の科目群を開設します。 3) 主体的・能動的な実践力を育成するため、設計製図や工学実験・実習、情報処理、卒業研究等の科目群を開設します。 4) チームで活動する能力や課題の提案・報告を行う能力を育成するため、設計製図や工学実験・実習、卒業研究等の科目群を開設します。 5) コンピュータ技術を実践に活用する能力を育成するため、設計製図や情報処理等の科目群を開設します。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/)</p>
<p>(概要)</p> <p>建設システム工学科では、21世紀の住みよい社会を創ることを目的として、その計画、運営、維持を行うことのできる素養を身につけるための勉強をします。本学科では、次のような人の入学を期待しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境と調和した街づくりに熱意を持っている人 ・災害に強く、安全な社会づくりに興味を持っている人 ・建設技術に関する知識を修得し、地域社会の発展や国際貢献に関わりたい人
<p>学部等名 総合システム工学専攻 電気電子システム工学コース</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法 : https://www.maizuru-ct.ac.jp/wp-content/uploads/2025/04/tebiki_sen_R07.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>高等専門学校準学士課程等で修得した基礎学力と専門知識に基づき、電気電子工学およびその周辺分野に関わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/)</p>

<p>(概要)</p> <p>本校専攻科の目的・専攻科修了者像に基づき、自らが継続的に学習することで、定められた目標を達成し、修了の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に修了を認定する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/）</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者として広い視野を身につけるための科目を開設します。 2. 技術者としての国際感覚を身につけるための科目を開設します。 3. 高度な数学の知識を修得する科目を開設します。 4. 異なる専門分野を含めた幅広い工学の基礎知識を修得する科目を開設します。 5. 技術者としての倫理を学ぶ科目を開設します。 6. 地域、社会等の課題の発見と解決に他者と協働して取り組む力を身につけるための科目を開設します。 7. 電気電子工学分野の深い学識を修得する科目を開設します。 8. 電気電子工学分野の応用的な実験を学ぶ科目を開設します。 9. 修得した実践技術をエンジニアリングの実践に活用することを学ぶ科目を開設します。 10. 技術者として地域、社会等の課題の発見と解決に取り組む実践力、修得した知識・技術を融合して創造する能力、さらにそれらの成果を発表する能力を身につけるための科目を開設します。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/）</p>
<p>(概要)</p> <p>専攻科では、優れた資質の技術者を養成するため、次のような入学者を期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 技術社会の中核を担う者として、社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人 (2) 専攻科生としての自覚と確かな目標をもち、自主的に学習・研究する意欲が高く、十分な基礎学力を身につけている人 (3) コミュニケーションの能力と物事を筋道立てて考察する力があり、自己の考えを適切に表現することができる人 (4) しっかりとした社会性と倫理観をもち、そして自ら考え、適切に行動できる人
<p>学部等名 総合システム工学専攻 機械制御システム工学コース</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法： https://www.maizuru-ct.ac.jp/wp-content/uploads/2025/04/tebiki_sen_R07.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>高等専門学校準学士課程等で修得した基礎学力と専門知識に基づき、機械工学およびその周辺分野に関わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/）</p>
<p>(概要)</p> <p>本校専攻科の目的・専攻科修了者像に基づき、自らが継続的に学習することで、定められた目標を達成し、修了の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に修了を認定する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/）</p>

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者として広い視野を身につけるための科目を開設します。 2. 技術者としての国際感覚を身につけるための科目を開設します。 3. 高度な数学の知識を修得する科目を開設します。 4. 異なる専門分野を含めた幅広い工学の基礎知識を修得する科目を開設します。 5. 技術者としての倫理を学ぶ科目を開設します。 6. 地域、社会等の課題の発見と解決に他者と協働して取り組む力を身につけるための科目を開設します。 7. 機械工学分野の深い学識を修得する科目を開設します。 8. 機械工学分野の応用的な実験を学ぶ科目を開設します。 9. 修得した実践技術をエンジニアリングの実践に活用することを学ぶ科目を開設します。 10. 技術者として地域、社会等の課題の発見と解決に取り組む実践力、修得した知識・技術を融合して創造する能力、さらにそれらの成果を発表する能力を身につけるための科目を開設します。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/）</p>
<p>(概要)</p> <p>専攻科では、優れた資質の技術者を養成するため、次のような入学者を期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 技術社会の中核を担う者として、社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人 (2) 専攻科生としての自覚と確かな目標をもち、自主的に学習・研究する意欲が高く、十分な基礎学力を身につけている人 (3) コミュニケーションの能力と物事を筋道立てて考察する力があり、自己の考えを適切に表現することができる人 (4) しっかりとした社会性と倫理観をもち、そして自ら考え、適切に行動できる人
<p>学部等名 総合システム工学専攻 建設工学コース</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法： https://www.maizuru-ct.ac.jp/wp-content/uploads/2025/04/tebiki_sen_R07.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>高等専門学校準学士課程等で修得した基礎学力と専門知識に基づき、土木工学，建築学およびその周辺分野に関わる，より高度で実践的な最新の技術教育を行い，地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/）</p>
<p>(概要)</p> <p>本校専攻科の目的・専攻科修了者像に基づき、自らが継続的に学習することで、定められた目標を達成し、修了の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に修了を認定する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/）</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者として広い視野を身につけるための科目を開設します。 2. 技術者としての国際感覚を身につけるための科目を開設します。 3. 高度な数学の知識を修得する科目を開設します。 4. 異なる専門分野を含めた幅広い工学の基礎知識を修得する科目を開設します。 5. 技術者としての倫理を学ぶ科目を開設します。 6. 地域、社会等の課題の発見と解決に他者と協働して取り組む力を身につけるための科目を開設します。 7. 土木工学および建築学分野の深い学識を修得する科目を開設します。

- | |
|--|
| 8. 土木工学および建築学分野の応用的な実験を学ぶ科目を開設します。
9. 修得した実践技術をエンジニアリングの実践に活用することを学ぶ科目を開設します。
10. 技術者として地域、社会等の課題の発見と解決に取り組む実践力、修得した知識・技術を融合して 創造する能力、さらにそれらの成果を発表する能力を身につけるための科目を開設します。 |
|--|

入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/aim/ ）

（概要）

専攻科では、優れた資質の技術者を養成するため、次のような入学者を期待しています。

- (1) 技術社会の中核を担う者として、社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人
- (2) 専攻科生としての自覚と確かな目標をもち、自主的に学習・研究する意欲が高く、十分な基礎学力を身につけている人
- (3) コミュニケーションの能力と物事を筋道立てて考察する力があり、自己の考えを適切に表現することができる人
- (4) しっかりとした社会性と倫理観をもち、そして自ら考え、適切に行動できる人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

https://www.maizuru-ct.ac.jp/wp-content/uploads/2025/05/soshikigaiyouzu_20250519.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
人文科学部門	—	2人	3人	2人	3人	0人	10人
自然科学部門	—	4人	3人	1人	2人	0人	10人
機械工学科	—	4人	3人	0人	1人	0人	8人
電気情報工学科	—	4人	3人	1人	1人	0人	9人
電子制御工学科	—	3人	5人	0人	1人	0人	9人
建設システム工学科	—	4人	3人	1人	1人	0人	9人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		21人					21人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/faculty/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
次の事項をFD活動として実施している。							
1. 授業アンケート、達成度評価 学生に対して行った授業アンケート結果（本校で開講されている全科目）を参考資料として全教員に開示し、教員間の議論を促し、学校全体の授業改善につなげている。また、教員は各自が課題分析と達成度割合を確認しており、前年度の課題分析等を反映させた授業改善を行っている。学科部門ごとの分析も同時に行い、組織的な改善に繋げている。							
2. 授業公開 授業を公開した教員は、学内評価者と学外評価者による授業評価、学生の意見及び教員や保護者によるアンケート結果を基にして授業改善プランを検討し、報告書を提出している。							
3. 授業参観 全教員は他の教員の授業を1つ以上参観し、それらの結果をFD・ICT部会に報告し、学内共有している。							
4. 教育連絡会議 年度ごとに主たる検討テーマを設定し、全教員を4つのグループに分けて会議を開催し、各グループでは上記の議題のうち1つをテーマとして議論を行い、結果をとりまとめ、各教員が持っている問題意識や諸問題に対する改善方法・技術・アイデアを学校全体に共有し、教育の質向上に繋げている。							
5. FD・ICT特別講演会 毎年1回以上、教育研究活動に資するための講演会を実施している。							

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	38人	95%	200人	182人	91%	若干名	1人
電気情報工学科	40人	41人	102.5%	200人	199人	99.5%	若干名	1人
電子制御工学科	40人	41人	102.5%	200人	184人	92%	若干名	0人
建設システム工学科	40人	40人	100%	200人	190人	95%	若干名	1人
合計	160人	160人	100%	800人	755人	94.4%	若干名	3人
総合システム工学専攻	16人	20人	125%	32人	36人	112.5%	0人	0人
合計	16人	20人	125%	32人	36人	112.5%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	34人 (100%)	12人 (35.3%)	22人 (64.7%)	0人 (%)
電気情報工学科	36人 (100%)	12人 (33.3%)	23人 (63.9%)	1人 (2.8%)
電子制御工学科	39人 (100%)	15人 (38.5%)	23人 (59.0%)	1人 (2.6%)
建設システム工学科	37人 (100%)	21人 (56.8%)	16人 (43.2%)	0人 (%)
総合システム工学専攻	15人 (100%)	3人 (20.0%)	12人 (80.0%)	0人 (%)
合計	161人 (100%)	63人 (39.1%)	96人 (59.6%)	2人 (1.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>開講している全科目について、担当教員が Web 上で科目基礎情報、到達目標、ルーブリック、学科の到達目標項目との関係、教育方法、成績の評価方法・評価基準、授業計画、評価割合を入力し、年度当初より公表している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>科目ごとに到達目標を設定し、平常の取り組み（演習、宿題、レポートなど）と定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価している。到達度と評価基準は以下のとおりである。</p> <p>100～90 A+、89～80 A、79～70 B、69～60 C 59～0 F（不合格）</p> <p>校長は、教員会議の議を経て、次の各号の要件をすべて満たした者を、本校全学年の課程を修了したものと認定し、卒業させる。</p> <p>(1) 卒業単位数を満たしていること。 (2) 必修科目の単位をすべて修得していること。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位	有・無	単位
	電気情報工学科	167 単位	有・無	単位
	電子制御工学科	167 単位	有・無	単位
	建設システム工学 科	167 単位	有・無	単位
	総合システム工学 専攻	62 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/public_information/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	機械工学 科	234,600 円	84,600 円	74,500 円～ 92,500 円	(内訳) スポーツ振興センター共済掛金 (後援会 費から支払い) 教科書代 約 50,000 円 後援会費 24,500 円 学生会費 6,000 円 (本科生のみ) 寄宿料 8,400 円～9,600 円 (寮生のみ) 寮生会費 2,400 円 (寮生のみ)
	電気情報 工学科				
	電子制御 工学科				
	建設シス テム工学 科				
	総合シス テム工学 専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 修学に関する要望について、学生、保護者と協議の上、合理的配慮と認められる場合は、 修学上の支援を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 主に、各学年を対象とした各種進路ガイダンス、本科3・4年生と専攻科1年生を対象とし た学校説明会 (進学希望者向け) やキャリアセミナー (就職希望者向け)、本科4年生と専 攻科1年生及びその保護者を対象とした三者懇談会を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) カウンセラーによるカウンセリングを実施しているほか、学生相談室主催で学生を対象と した「放課後勉強会」を年4回の実施ならびに全学生を対象とした学校適応感尺度調査を年 2回実施するなどの取組を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.maizuru-ct.ac.jp/introduction/public_information/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。